



平成 22 年 3 月期第 4 四半期 マイルストーン開示
(当社事業計画の進捗状況等について)

平成 22 年 5 月 13 日

上場会社名 株式会社ユビキタス

(コード番号: 3858 NEO)

(URL <http://www.ubiquitous.co.jp/>)

問 合 せ 先 代表取締役社長 家高朋之
経 理 財 務 部 長 榑木玲子

TEL: (03) 5908 — 3451

平成 22 年 2 月 5 日発表のマイルストーン開示に係る事業計画の年度末時点における進捗状況について、以下のとおりお知らせします。

1. 年度末時点における今期事業計画の達成状況

[今期事業計画の達成状況]

・通期業績予想と実績の比較表 (百万円)

区 分	通期業績予想	実 績	達成率 (%)
売 上 高	1,080	1,159	107.4
営 業 利 益	400	463	115.8
経 常 利 益	408	470	115.4
当 期 純 利 益	150	183	122.4

・形態別売上高の予想と実績 (百万円)

区 分	通期業績予想	実 績	達成率 (%)
使 用 許 諾	910	944	103.8
サ ポ ー ト	96	92	96.7
受 託 開 発	74	122	165.3
合 計	1,080	1,159	107.4

・分野別売上高の予想と実績 (百万円)

区 分	通期業績予想	実 績	達成率 (%)
ゲ ー ム 関 連	760	796	104.8
ネ ッ ト ワ ー ク 関 連	170	217	128.1
デ ー タ ベ ー ス 関 連	150	145	97.1
合 計	1,080	1,159	107.4

[今期事業計画の達成状況に関する定性的情報等]

(1) 総括

平成 22 年 3 月期においては、期初の予想を上回るペースで業績が進捗し、堅調な業績が見込めたため、平成 22 年 1 月 26 日に「通期業績予想の修正」を行いました。これを受けて、平成 22 年 2 月 5 日「平成 22 年 3 月期～平成 24 年 3 月期 マイルストーン開示に係る事業計画の修正について」において、平成 22 年 3 月期の事業計画を修正しております。

修正後の通期業績予想に対する達成率は、売上高で 107.4%、経常利益で 115.4%、当期純利益で 122.4%となりました。ゲーム関連売上高が堅調に推移したことに加え、ネットワーク関連、及びデータベース関連においても売上高が堅調に推移しました。売上高の達成率の高さは、ゲーム関連で人気タイトルの発売が続いた他、ネットワーク関連で計画外の受託開発案件を受注できた結果です。また、当期純利益の達成率の高さは、本社移転費用が当初計画よりも圧縮できたことが主な要因です。

また、第 4 四半期においては、新製品「Ubiquitous QuickBoot」の販売開始に注力し、平成 22 年 3 月より販売を開始しました。詳細に関しては、P4 ②研究開発成果に対する評価・判断のポイントをご参照ください。

(2) 年度末時点における研究開発及び事業開発の進捗状況について

① ネットワークの高速化

第 1 四半期において、国内大手メーカーより携帯端末向けの TCP/IP 高速化に関する評価試作を受注、納品いたしました。第 3 四半期には、株式会社ルネサステクノロジ（現：ルネサスエレクトロニクス株式会社）との協業による開発成果として、車載ネットワーク向けに 600Mbps を超える高速通信の実証に成功したことを発表しました。

上記は、当社の組込み機器向け高速 TCP/IP プロトコルスタック「UbiquitousTCP/IP」を、ルネサスの次世代車載情報端末向けデュアルコア SoC「SH7776」(SH-Navi3) のうちの 1 つのコアに実装したものです。車載組込み CPU としては世界で初めて最高クラスの通信速度を安定的に実現し、車載情報端末での TCP/IP 通信の実用化に目処をつけました。サーバ、インターネット、ネットワークシステム処理に必要な世界最高速クラスのブロードバンド環境の構築が、カーナビゲーションシステム向けとして可能となりました。

具体的には、リアシートエンターテイメントにおいて、ハイビジョンクラスの映像の複数同時視聴、車外に複数取り付けられた高精細なカメラ画像の同時伝送による 360° 表示、車内に持ち込んだポータブル AV 機器とカーナビゲーションシステム連携など、新たな車内情報環境の構築が可能となります。

第 4 四半期における、当研究開発の新たな進捗はございませんが、本開発テーマに対しては一定の成果がありましたので研究開発を終了とし、今後は本開発成果をベースに個別案件のニーズに対応する形をとってまいります。

② AV 機器のネットワーク対応

本テーマにつきましては、引き続きセットトップボックス*関連のプロジェクトを中心に取り組んでおります。また、以前より取り組んできた大手家電メーカー向けレコーダ案件が量産に移行し、第2四半期より使用許諾料収入に寄与しております。

また、第4四半期においても、お客様の次年度モデルでの採用に向けてさらなる性能改善を継続しております。

*セットトップボックスとは、デジタル放送の受信機能に加え、テレビを利用したインターネットの利用など、一般家庭向け統合サービス端末としての機能を持つ機器のこと。

③ ワイヤレス・ネットワーク

引き続き研究開発を続け、以下のような開発成果を2009年11月のET2009（組込み総合技術展）で展示しました。

- ・無線LANモジュールだけでtwitterのつぶやきを表示するシステム
- ・カメラで撮った画像をtwitterにアップロードするシステム
- ・DLNA対応のネットワークスピーカー
- ・低価格センサーネットワークシステム
- ・かんたん無線LANソリューション

第4四半期における、当研究開発の新たな進捗はございません。

④ ネットワーク対応ゲーム

ゲーム分野においては、人気タイトルが複数発売され、ニンテンドーDS向けWi-Fi対応ゲームソフトウェアからのロイヤルティ収入が当初計画を上回って推移しました。

⑤ 組込みデータベース

平成20年8月エンサーク社より「DeviceSQL」の知的財産権を取得後、社内にDeviceSQL専門の開発部門を構築し、当社の開発エンジニアにより機能の向上、ユーザビリティの強化などを図ってまいりました。平成21年5月にDeviceSQLの基本性能の向上とユーザビリティを強化した「Ubiquitous DeviceSQL Release 4.1」を発表しました。さらに、平成21年10月にエンタープライズデータベースとの連携を強化した最新版「Ubiquitous DeviceSQL Release 4.2」及び、新製品「DeviceSQL DataSync」を発売しました。

新バージョンにおいては、下記のような機能強化を行っております。

- ・データベース機能として重要な検索、ソート等の基本性能の向上
- ・DeviceSQLコンパイラのコンパイル時間の短縮
- ・SELECT文におけるLIMIT/OFFSET句を追加サポートし、問い合わせの実行で生成された行の一部のみを取り出すことを可能とする

一方、新製品DataSyncは、DeviceSQL4.2のオプション製品として提供され、TCP/IPネットワークを介して、エンタープライズ系RDBMSとDeviceSQLとの間でのデータ同期機能をサポートします。これにより、企業内データの組込み機器での活用や組込み機器のデータを企業内データへ反映させることなどが容易に行えるようになります。

また、社内における販売、開発、及びサポート体制を本格化し、積極的に組込みデータベース事業を展開した結果、パイオニア株式会社とのDJ機器、アルパイン株式会社のカーナビ

ゲーショシステムのほか、オリンパスイメージング株式会社やパナソニック株式会社のコンパクトデジタルカメラに採用され、量産されております。

なお、第4四半期においては、次年度第1四半期に予定している「Ubiquitous DeviceSQL Release 4.3」リリースに向けた開発、及びさらなる機能強化、対象マーケット拡大のための新規開発を続行しております。

⑥ 当社ソフトウェアの強化や周辺アプリケーション拡充のための資本提携等

当期中には新たな資本提携は締結しておりませんが、継続的に当社ソフトウェアの強化、周辺アプリケーションの拡充、また、事業拡大につながる協業を模索しており、案件の検索、評価を継続して実施しております。

(3) 計画達成のための前提条件について

① 研究開発計画達成のための前提条件

正社員としては、当初計画通りエンジニア 20 名の体制から変更はありません。都度発生する技術要員ニーズに対しては、契約社員、派遣社員等により臨機応変に対応しております。

② 研究開発成果に対する評価・判断のポイント

以下が、当期における研究開発成果としての新製品リリースの状況です。当期中に 3 件の新製品リリースを行う計画でしたが、第2四半期末までにその計画を達成しております。

第1四半期中に株式会社ルネサス テクノロジ（現：ルネサスエレクトロニクス株式会社）製の Ethernet コントローラ内蔵 16bit マイコン H8S/2472, 2463, 2462 グループ向けの「UbiquitousTCP/IP ソフトウェア開発キット」、及び組込みデータベース製品「Ubiquitous DeviceSQL Release 4.1」の2製品をリリースしました。

第2四半期には iPhone/iPod touch 向け星座エンターテイメント アプリ「NIGHT SKETCH」をリリースしました。

第3四半期には、「Ubiquitous DeviceSQL Release 4.2」及び「DeviceSQL DataSync」をリリースしました。

また、当社独自の技術を生かし、ネットワーク、データベースに次ぐ新製品「Ubiquitous QuickBoot」の開発に成功しました。QuickBootは、デジタル家電や携帯電話に採用されているLinuxやAndroidなどのOSの起動時間を画期的に短縮することができる技術です。当社は、OSの起動時間の遅さがユーザーの利便性を損ない、待機電力がかかる原因ともなっていることに注目し、研究開発を進めてまいりました。平成21年11月、世界最速となる約1秒での起動に成功し、発表を行いました。

第4四半期には、QuickBootをSDK（ソフトウェア開発キット）としてリリースし、平成22年3月より発売を開始しました。QuickBootは、新聞や雑誌、各媒体などでも大きく取り上げられ、画期的な技術として各方面より注目を頂いております。

③ 研究開発計画達成に重要な影響のあるライセンス契約など

当期において新規のライセンス契約締結はありません。

なお、平成 23 年 3 月期～平成 25 年 3 月期 マイルストーン開示に係る事業計画については、現在策定中であり、完成次第開示いたします。

〔業績目標に関する定性的情報等〕

当社の主要顧客である半導体メーカーや電機メーカーは、リーマンショック以来の金融危機と景気後退の悪影響から脱し始めたかのような報道が散見されるようになりましたが、これは、各国政府による財政出動の効果、また、各社の費用削減努力によるところが大きいものと思われます。欧州では南欧発の金融不安が熾り、各国政府による財政出動の停止・縮小、費用削減の限界などを考え合わせると、依然先行きは楽観視できません。

当社は、顧客企業に対して当社製品の利点を訴え、ご採用いただけるように努力を続ける所存ですが、見込み通りにソフトウェア使用許諾契約を締結していただけなかったり、予定していたプロジェクトが延期または中止になった場合には、当社業績に影響が出る可能性があります。

また、当社が挑むユビキタス・ネットワーク市場は、未だ形成の初期にあり、その成長に予測困難性が伴います。当社は、現出しつつあるこの市場で他社に先駆けて優れた技術や製品を投入し、先行してシェアを獲得する考えですが、市場の形成そのものに不確実性が伴うことは避けられません。

携帯ゲーム分野への依存度が高いこともリスク要因です。当社は、携帯ゲーム以外の事業を早急に立ち上げるべく努力しておりますが、携帯ゲーム分野への依存度が高いまま当該事業が不調になると会社業績に大きな影響を与えます。ゲームは不景気に強いとされておりますが、失業率が上昇すれば消費を控える傾向が進み、期待したとおりに売上が伸びない可能性があります。

当社では事業拡大を行ううえで、当社独自の技術やノウハウを活かした新規事業や製品を提供することが必要であると認識しております。このため、新規事業や製品への投資については、その市場性などについて十分な検証を行ったうえで投資の意思決定を行っておりますが、市場環境の変化や不測の事態により、当初予定していた投資回収を実現できない可能性があります。また、新規事業や新規サービス・製品の立ち上げには、一時的に追加の人材採用、研究開発等が発生し、当社の財政状態及び経営成績に影響を与える可能性があります。

【参考資料】「平成 22 年 3 月期～平成 24 年 3 月期 マイルストーン開示に係る事業計画の修正について」は、平成 22 年 2 月 5 日開示の文書をご参照下さい。

以 上

本開示資料は、投資者に対する情報提供を目的として将来の事業計画等を記載したものであって、投資勧誘を目的としたものではありません。当社の事業計画に対する評価及び投資に関する決定は投資者ご自身の判断において行われるようお願いいたします。

また、当社は、事業計画に関する業績目標その他の事項の実現・達成等に関しその蓋然性を如何なる意味においても保証するものではなく、その実現・達成等に関して一切責任を負うものではありません。

本開示資料に記載されている将来に係わる一切の記述内容（事業計画に関する業績目標も含まれますがそれに限られません。）は、現時点で入手可能な情報から得られた当社の判断に基づくものであり、将来の経済環境の変化等を含む事業計画の前提条件に変動が生じた場合その他様々な要因の変化により、実際の事業の状態・業績等は影響を受けることが予想され、本開示資料の記載内容と大きく異なる可能性があります。